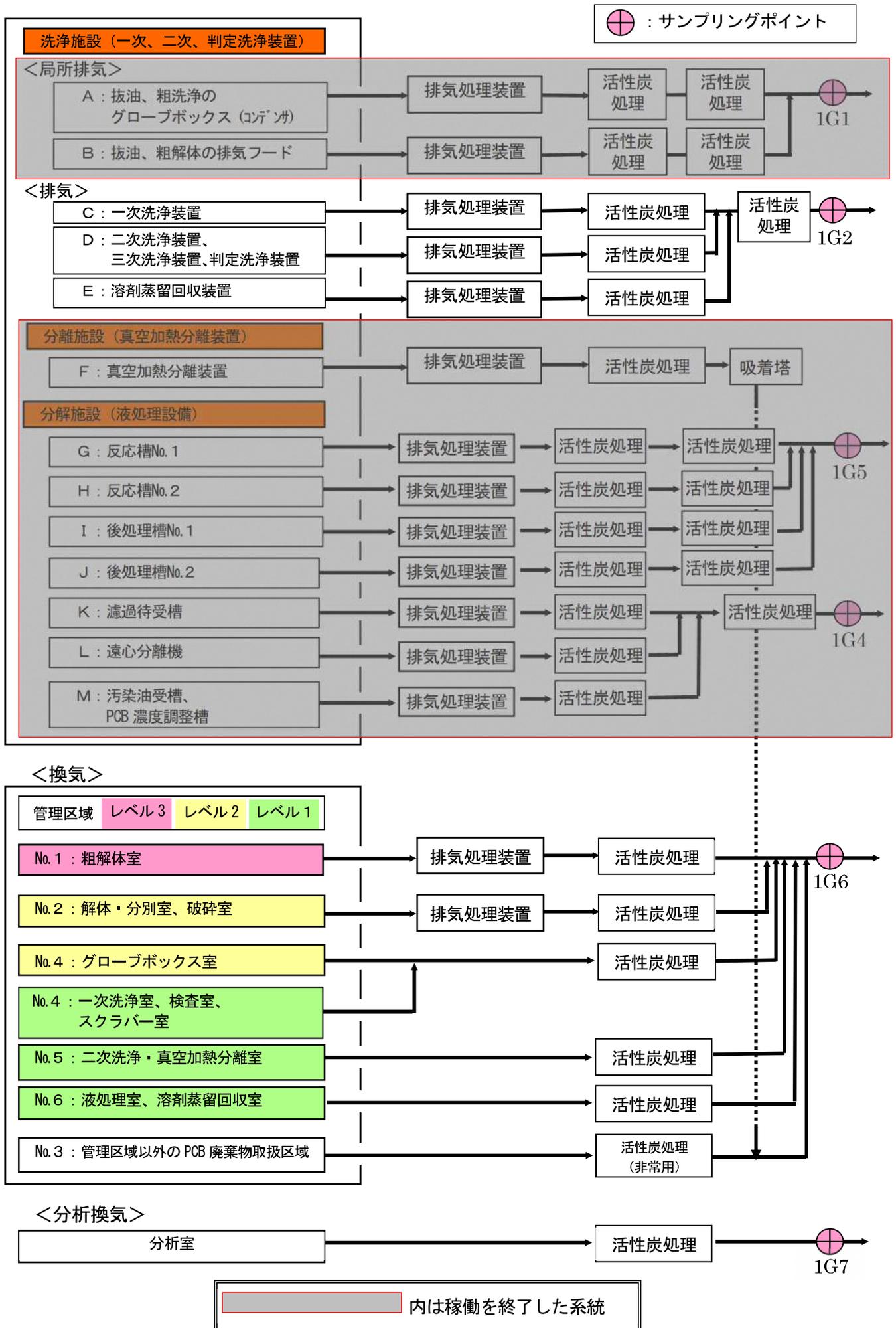
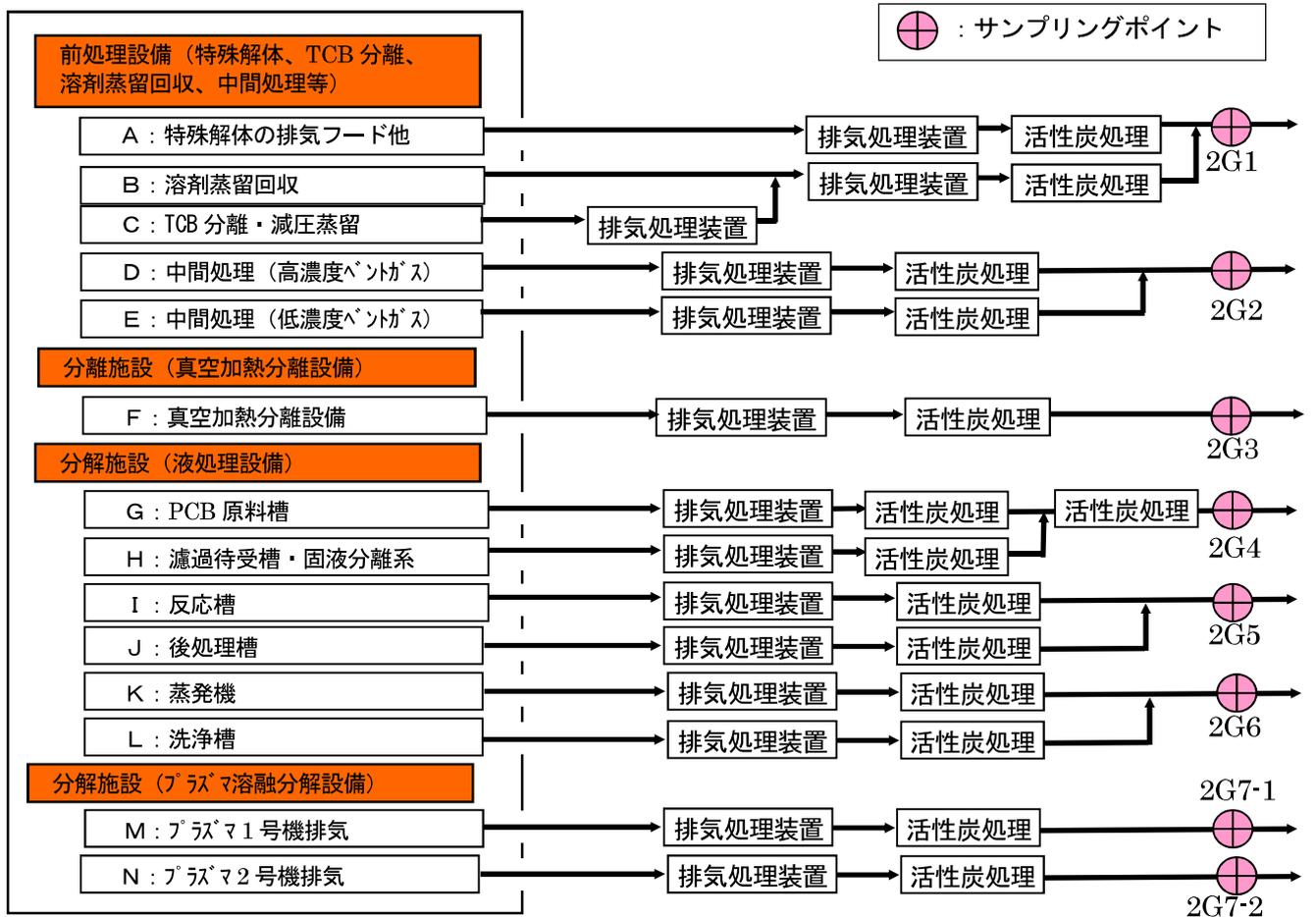


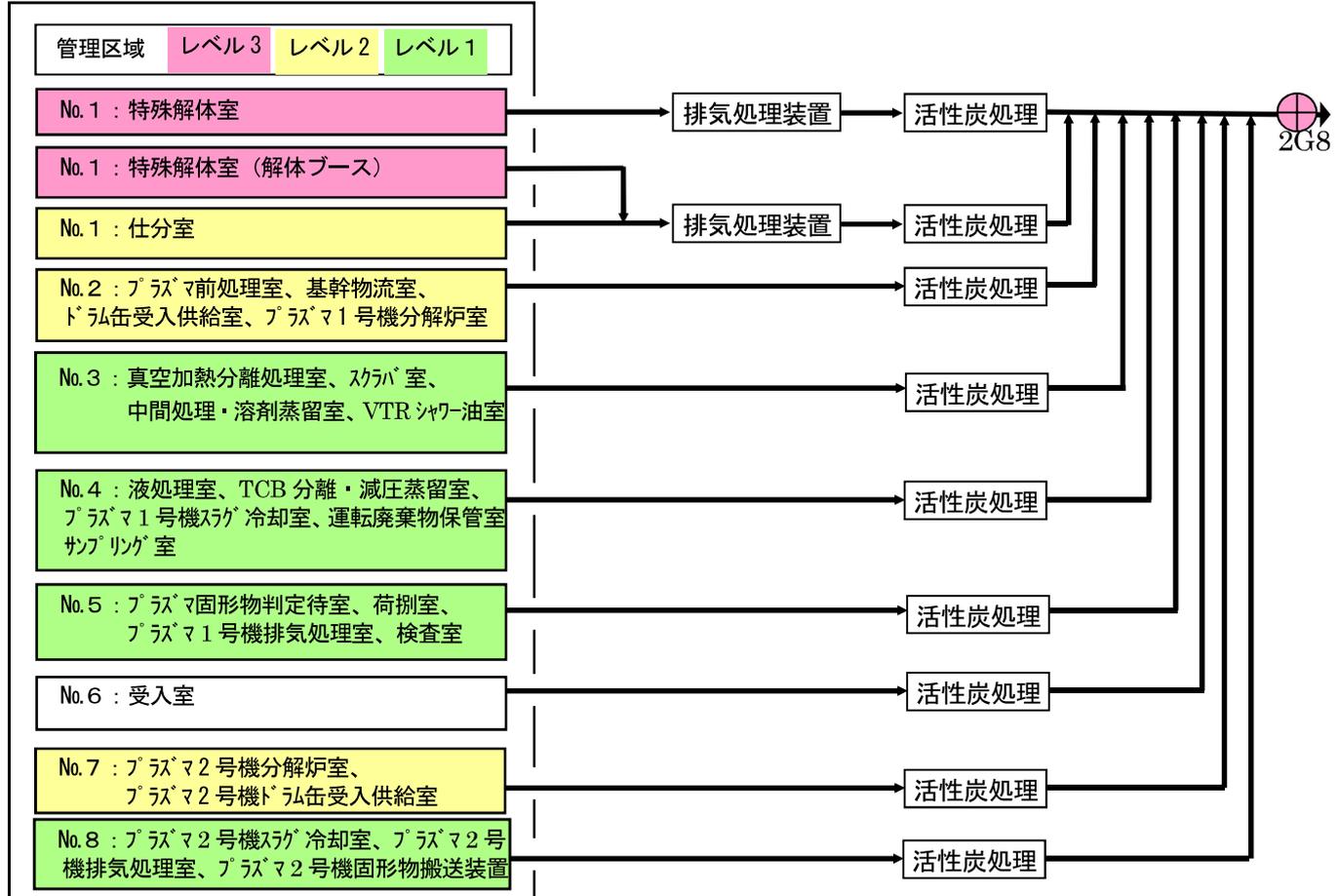
排気測定サンプリング箇所（1期施設）



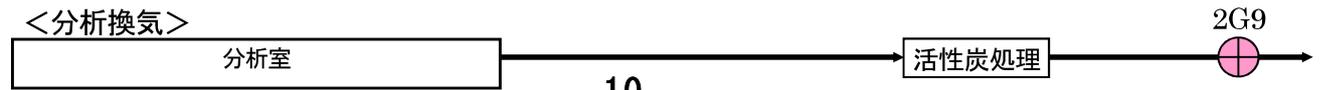
排気測定サンプリング箇所（2期施設）



<換気>



<分析換気>



北九州PCB廃棄物処理施設のトラブル事象等

■トラブル事象(令和2年8月～12月)

No.	発生日	発生場所	概要	対応状況
1	8月31日 14時25分	2期・2階 低濃度分析室	低濃度分析室No3ドラフトチャンパー前の天井の一部が2m四方の範囲で落下。 No3ドラフトチャンパーでの作業はしていなかったが直ちに低濃度分析室の入室を禁止。 ドラフトチャンパー内の負圧は正常範囲であることを確認。	天井内の排気ダクトに結露が見られ落下した天井板も膨潤していたことから、結露が原因によるものと判明。 応急措置として、天井の開放部に防水シートを張り、すき間を養生テープで塞ぐとともに、周辺の天井板にビスを打ち込んだ後に、天井内の排気ダクトの仮保温工事と作業場所上部のビス止め補強工事を施工。 恒久対策として、天井裏ダクトの断熱工事を施工するとともに、天井内部の点検による経過観察を実施。
2	9月3日 9時30分	1期・1階 破砕室	始業前点検で破砕室の天井の一部に約50cm角の剥離を発見。 直ちに当該箇所付近の立入を禁止。 破砕室内の負圧は正常範囲であることを確認。	給気ダクト吹き出し口付近に結露跡があったことから、室温と給気温度の温度差による結露が原因によるものと判明。 応急措置として、天井吹き出し口の下部にセーフティネット等の仮設工事を施工。 恒久対策として、既存の天井材の下側に、新たな天井材(ケイカル板)をネジに加えワッシャーで固定する補強工事を施工するとともに、天井内部の点検による経過観察を実施。

・同様の事象が続いたことから、施設全体の緊急的な点検を実施。緊急対応が必要な箇所は無かったが、安全サイドに立って天井材等の更新工事を計画し、工事完了。

■ヒヤリハット事例(令和2年1月～令和2年12月)

年	R 2 年												小計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
実体験	1	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	5
仮想	13	12	11	10	12	10	19	16	12	12	9	11	147

”実体験”は、提案者が現場で体験してヒヤリ・ハットした事象であり、”仮想”は、提案者が現場で、もしかしたら発生するのではないかと考えた事象。

